

高知女子大学看護学会のあり方検討 報告

高知女子大学看護学会のあり方検討会

第30回高知女子大学看護学会総会において、今後の学会のあり方を検討して行くことが承認され、平成16年度の活動として「学会のあり方検討」をして来た。本学会運営委員会にてあり方の原案を作成し、第31回本学会総会（平成17年7月23日）にて審議した結果、下記の通り承認された。

I. 学会のあり方検討の過程

1. 学会運営委員会内に「学会のあり方検討ワーキンググループ」を設置し検討した。（アンケート調査、アンケートの結果を踏まえたあり方の提案）
2. ワーキンググループから提出された原案をベースに、学会運営委員会にてアンケート調査を実施し、その結果を踏まえたあり方の検討・提案を行なった。

II. 高知女子大学看護学会の今後のあり方

1. 方針

- 1) 交流・ネットワークづくりを進める（同窓会機能の強化）。
- 2) 学術的側面と、同窓的側面のメリハリをつける。
- 3) 学会に参加したいが諸事情により参加出来ない会員のための対応をする。

2. 学会のあり方

- 1) 学会：原則として1日の学会とする。
 - (1) 研究発表会は行わず、午前中に学術講演会（シンポジウムも含む）を行う。（公開）
 - (2) お昼に、総会を開催する。（ランチョン総会；学会員のみ）
 - (3) 午後に、学術交流会（領域別、等）を行う。（会員のみ、あるいは公開）
 - (4) 午後に、茶話会（回生／領域／全体）を行う。（会員のみ）
- 2) 公開講座
定期的には開催しない。学術的役割を学

術講演会、学会誌、学術交流会へ移す。

- 3) 学会誌の学術的な充実、リニューアルをはかる。
- 4) ホームページの設置等による情報の発信と共有を行う。

資料：高知女子大学看護学会あり方調査の分析

1. サンプル

回答者数は192人であり、回答者の卒業回生を見ると、各世代の意見が集められていると思われる。また、学会員と非学会員の比率は、非学会員に「わからない」の回答者を含めて約6対4で、現状を反映している。従って、当該サンプルを用いて、今回の分析目的に合うデータ抽出が可能であると考ええる。

2. 今後の学会の柱

メインクエストである「交流・ネットワークづくり」を学会の柱の一つに加えることについて、「賛成」が64%、「どちらかといえば賛成」が23%、合わせて87%の人が賛成であり、「どちらでもよい」が13%ではあったが、反対意見は皆無であった。

よって、「交流・ネットワークづくり」を学会の柱の一つに加えることとしたい。

3. 学会への参加

学会への参加理由は、「新しい知見・知識」が31%、「職場への還元」が8%で、計39%の人が従来の学会の目的であるアカデミックな活動に期待していることが伺える。一方、「教員との繋がり」が12%、「同窓生との繋がり」が22%、「母校の応援・見守り」が13%で、計47%の人が同窓会的なネットワークにかかわる理由を挙げている。

また、参加しない理由は、「仕事の調整がつかない」が21%、「時間が無い」が14%、「地理的に遠い」が24%、「家庭の事情」が10%で、計69%の人が学会の内容ではなく、自

分の環境にかかわる理由を挙げている。一方、「興味関心が無い」は6%、「行きにくい雰囲気」が5%、「以前参加したが無収穫」が2%で、計13%の人が学会に対するネガティブな理由を挙げている。「学会費が高い」が3%、「滞納一括年会費が高い」が7%で、計10%の人が金銭的な理由を挙げている。

以上より、従来どおりのアカデミックな活動に加え、同窓会的なネットワークにかかわる目的で学会を運営することを示唆していると思われる。また、更に学会に参加してもらうため、仕事の調整や家庭の事情などの個人的要因、あるいは金銭的な要因をコントロールする必要がある。そのためには、前述のアカデミックな活動への付加価値、およびネットワーク活動の強化を考慮し、会員の支出に見合うものを如何に提供するかが課題であろう。

4. 退会理由

「興味の喪失、メリットがない」や「学会費に見合うだけのメリットが感じられない」等のネガティブな理由は少なく、仕事等により参加の機会が無いため退会したり、学会費の未納によるものが多かった。学会のあり方等の自由意見欄には、学会に参加することのみが学会活動への参加ではなく、ホームページ等を用いた参加形態を示唆する会員もいる。また、そのような学会活動に対して会費を納入してもよいという意見もあり、会員のニーズにあった情報発信や意見交換環境を整えることで、会費納入を促すことができるのではないと思われる。

5. 学会参加を促すテーマ

学会そのもののテーマとしては、「卒後教育・スタッフ教育」が18%、「看護研究方法論・進め方」が14%、「教育カリキュラム・教育方法」が8%で、計40%の人が教育・研究にかかわるテーマに関心を持っている。また、「復職・キャリアアップのための保健医療福祉の動向」が18%、「進学や留学に関する情報」が4%で、計22%の人が専門職としての自分のキャリアアップのための情報提供

を期待している。一方、「母校情報と今後の動向」が10%、「同窓生情報」が10%、「母校を支援する活動に関する情報」が5%で、計25%の人が同窓生情報を含めた母校に関する情報提供を望んでいる。

また、交流・情報交換をする場所や方法としては、前述の環境的な不参加理由を反映してか、「HPや学会誌での情報提供」が27%、「学会員にアクセスできるデータベース」が24%、「同窓生とアクセスできる仕組み」が11%で、計62%の人が学会に参加しなくても交流できる方法に関心を示している。

必要条件と思われる「学術集会での交流コーナー」は19%で、学会参加を前提としている。また、個人的要因が働いているのか、2%の「夜間の親睦会」というより、10%の「同窓生が気軽に集える茶話会」を望んでいるようである。

挙げてもらったテーマあるいは場があったら学会に参加するかは、参加するが71%で、参加しないが29%であった。また、そのテーマや場に関する内訳は、参加すると答えた人では、「HPや学会誌での情報提供」が61件で26%、「学会員にアクセスできるデータベース」が53件で22%、「同窓生とアクセスできる仕組み」が23件で10%と、計58%の人が参加するにしても、日常の交流環境の充実を望んでいる。一方、参加しないと答えた人は、「HPや学会誌での情報提供」24件39%、「学会員にアクセスできるデータベース」16件26%、「同窓生とアクセスできる仕組み」8件13%の計78%、「学術集会での交流コーナー」は6件10%で、やはり具体的に学会には参加せずに学会とかかわることを示している。

6. 交流協力

「自らも情報発信したり、交流の協力をしてよい」と答えたのは49%で、約半数の人が協力するとしている。そのテーマや方法は、「情報交換の世話役」が39%、「学会受付・広報」が25%、「同期・同窓生の親睦の世話役」が17%で、計81%の人が、学会等のイベントの世話役を引き受けてもよいとしていた。

7. 学会のあり方、運営、企画等に関する自由意見

「学校保健」に関する企画を望む声が多くある。学術的な集会ばかりではなく、同窓生としての種々の情報交換の機会の提供を望む

声も多い。また、高知という地理的条件から、具体的に高知に来なくても学会活動に参加できる、新たな参加形態を望む声も多かった。

以上